神社参拝覚書

参拝とは

　神社に参拝することは、心身の罪や穢れを祓って魂を清め、生命の輝きを再生させることです。

　古来、人間は「神のワケミタマ」であって、その本質は、アカキ・キヨキ・ナオキ・タダシキものと考えられてきました。
穢れとは、「氣枯れ」であるとも云われています。氣、つまりパワーや力が衰えて「ワケミタマ」が穢れている状態を指すのです。

　参拝で大切なことは、「感謝の心」です。
自然の営みに感謝して厄災を除き、日々の暮らしの平穏を願い、祭神の加護によって願い事の成就を祈るのです。

（ 略拝詞 ）　祓へ給え。　清め給え。　守り給え。　幸へ（さきはへ）給え。

直会（なおらい）とは

　直会とは、神事の最後に行う食事のことです。
神事に参加したもの一同で、神酒を戴き神前に捧げた餅などの神饌を共に食する、神事を構成する行事の一つです。
　神が召し上がったものを頂くことにより、神との結びつきを強くし、神霊の力を分けてもらい、その加護を願うものです。

正月とは

　人間は自然と対峙するものでは無く、人間も自然の一部として在るものとされてきました。
私たちの祖先は、「全てのモノには命があり、意味がある。」という「アニミズム」を信仰していました。
そのため、作物の生命と人間の生命は１つのものであると考えていたわけです。
故に、人間が死ぬとその魂は別の世界に行き、ある一定の期間が過ぎると「祖霊」という大きな集団になり、「ご先祖様」になると信じられていたのです。
　この祖霊が春になると「田の神」になり、秋の収穫が終わると山へ帰り「山の神」に、そして正月には「年神」になって子孫の繁栄を見守るのだと言われています。
　正月は、本来はお盆と同じように「先祖をお祀りする行事」でした。しかし、仏教が浸透していくにつれ、お盆は仏教行事と融合して先祖供養の行事へ、正月は年神を迎えてその年の豊作を祈る「神祭り」となったと考えられています。